



そこで、三国湊の歴史や文化を活かした観光誘客と商業再生、町家・街並・歴史文化遺産の保全と継承を目的に、専門家との意見交換や住民ワークショップを通して計画を策定し、実行しました。

主な取組内容は、以下のとおりです。

### ① 空き家改修事業

伝統的な町家などの空き家を改修し、そこに入居する店子を公募しました。その結果、雑貨屋、フレンチデリ、盆栽屋など様々なジャンルの店舗がオープンし、町中から少なくなっていた若者が来る場所になるなど、新たな賑わいを生み出しています。また、築百数十年を超える町家が、古民家再生の先駆者である東洋文化研究者のアレックス・カー氏監修のゲストハウス「詰所三國」に生まれ変わり、湊町の風情を体感できる滞



古民家ゲストハウス「詰所三國」(外観)

在型観光の拠点になりました。

### ② 街並みづくり事業

東京大学、福井大学の学生チームが基本プランを作成し、都市公園を「マチノニワ」と名付け、街並景観にマッチした空間に改修しました。公園の入り口には街並みの連続性を強くする東屋を建て、公園の中には九頭竜川が見える小さな高台を作り、当時、北前船の積み下ろしがあった川とのつながりを想像させる工夫をしています。

### ③ 情報発信事業

ホームページやfacebookを活用して、三国湊のあらゆる情報を発信し、事業及び地域をPRしています。また、北前船寄港地として栄えた海運の歴史や、多くの文人墨客を魅了した文学のまちを紹介



古民家ゲストハウス「詰所三國」客室

するガイドダンス映像を作成し、空き倉庫を改修したミニ資料館「マチノクラ」で上映することで、三国湊の魅力発信とまち歩きを促す拠点として活用しています。



都市公園を改修した「マチノニワ」

### 取組成果と今後の展望

3年間の取り組みで、空き家6軒の改修と活用、都市公園の改修、そして東京大学との共同研究で今後のまちづくりビジョンを策定することができました。このプロジェクトで国内外から6名の方が新たに三国町に移住しました。また、三国湊のまち歩きをする観光客数も平成26年の64,000人から平成27年は81,000人に増加し、毎年約1万人増加しているなど、人口減少対



空き町家を改修した店舗が次々と誕生

策、観光振興策、景観保全策として効果を上げています。

三国湊は北陸三大祭「三国祭」をはじめとする歴史、伝統、文化が息づくまちであり、湊町の風情が住民の誇りでもあります。この湊町の風情を将来にわたって残していくためには、これからもこのプロジェクトに関わる公・民・学の様々な団体が連携、協働していく必要があります。今後も空き町家の利活用を基本方針に、歴史を活かした空き家の活用を通じて地域の課題を解決し、交流人口の拡大によって三国湊の空き家の需要を高め、空き家を利用した店舗の増加や定住の促進によって、一層魅力ある湊町となることを目指していきます。

(文責) 坂井市職員組合

高橋 新司